

第1回セミナー かたってまちづくり みよう!

@熊本日日新聞社・本館2階ホール

5月から隔週掲載でスタートした「まちづくり探検隊」。熊本市のまちづくりや地域活動を知ってもらうために、探検隊メンバーが毎週さまざまな活動や取り組みを体験・取材し、紹介しています。さらに「まちづくり探検隊」では、紙面をきっかけに地域活動への興味を持った方に実際の行動に移してもらおうとセミナーも開催。その第1回の様子を紹介します。

20代から80代まで、
幅広い世代が集い、
子どもたちを守るために
話し合いました!



「子どもの安全」という関心の高いテーマだけに参加者の意識も高く、活発に意見が交わされました



どう守る?? 子どもの安全

7月8日、熊本日日新聞社・本館2階ホールで開催したセミナー「かたってみよう! まちづくり」。事前に申し込みいただいた約30人に加え、地域づくりについて研究している熊本法学部・伊藤ゼミの学生8人も参加してくれました。

この日のテーマは、「どう守る? 子どもの安全」。近年、子どもが犠牲となる悲しい事件が頻発しています。そうした子どもを取り巻く環境の変化や危険に親はどう対処すればいいのでしょうか。

子どもの安全、
親だけでは限界
「地域のか」
見守りに活用を!

セミナーの講師に、地域の防災・

防犯などに詳しい水野直樹さん(スタディライフ熊本理事)を迎え、子どもが巻き込まれる最近の事件の傾向などについて話を聞いた後、5~6人のグループに分かれてワークショップを行いました。

ワークショップには、セミナーを主催した熊本市の職員も参加。「子どもを犯罪から守るために親にできること」について皆で意見やアイデアを出し合った一方で、「親だけでは見守ることができない時間がある」という課題も見つかりました。それに対処する一つの手段として挙げたのが、「地域ぐるみでの見守り」。昔ながらの、向こう三軒両隣の精神や、熊本地震で重要性を再認識した、地域の絆を、子どもの安全を守るために生かそうというものです。

ワークショップには、セミナーを主催した熊本市の職員も参加。「子どもを犯罪から守るために親にできること」について皆で意見やアイデアを出し合った一方で、「親だけでは見守ることができない時間がある」という課題も見つかりました。それに対処する一つの手段として挙げたのが、「地域ぐるみでの見守り」。昔ながらの、向こう三軒両隣の精神や、熊本地震で重要性を再認識した、地域の絆を、子どもの安全を守るために生かそうというものです。

子どもの安全、命は誰にとっても“自分ごと”



今回のセミナーは、地域と家庭が共に大切にしたいものを取り上げることで、**お互いの力が一つになるのでは**の思いから、「**子どもの命**」をテーマにしました。ワークショップでは、子どもの安全に関する課題を「自分ごと」として発言してくれる参加者が多く、何かを「してもらう」でなく「自ら動く(行動する)」という思いを感じました。

講師・ファシリテーター 水野直樹さん (スタディライフ熊本理事)

参加者間で共通認識が持てたことが収穫



わが子だけでなく、**地域の子もたちをどう守るか**について、議論は熱く盛り上がりました。私にとっても、「個人で子どもの安全を守るには限界がある」「(親だけでなく)地域の力が必要だ」と感じた時間でした。参加者全員で、「**子どもを守るには、地域全体で取り組まないといけない時代**」という共通認識を持てたのではないのでしょうか。

司会 荒木直美さん (タレント、まちづくりコーディネーター)



この日の講師と、ワークショップのファシリテーターを務めた水野直樹さん

セミナーやワークショップで得た情報や知識を活用して、参加者は今後どのように地域と関わっていくのでしょうか。「まちづくり探検隊」では、皆さんの「これから」にも注目していきます!

